

## 四季の谷津の歩き方 - 冬編 -

季節ごとの谷津歩きのポイントを紹介しします。今回は冬編です。

房総というと冬でも暖かな印象がありますが、海から離れた下大和田や小山では冬場の気温が氷点下になり、田んぼは氷に、畦は霜柱に覆われます。台地の影になって日当たりが悪い場所では日中でも氷が融けることがなく、一日中ひんやりとしています。そんな冬の谷津は生き物がみんな眠っている寂しい世界と思っている方が多いようですが、実は冬でも元気な生きものたちで谷津はにぎわっています。

### ■野鳥

冬の谷津で一番のにぎわいを見せるのは野鳥たちです。秋が深まると北国から、あるいは高い山から避寒のために鳥たちが渡ってきます。田んぼに群れをなして降りて餌を探すカシラダカやクワッ、クワッと大きな声を出して飛び回るツグミははるばるシベリアから日本海を越えてやってきます。一方、斜面林の縁のやぶやアシ原でチッ、チッと鳴いて時折黄色い羽の色を見せるアオジやオスが鮮やかな青色のルリビタキは標高が 1,000 メートルを超える高地で夏を過ごす鳥です。遠くからやってきた冬のお客さんに出会ったら「ようこそ」とひと声かけてあげましょう。冬鳥たちは春になって北へ旅立つ前になるとさえずりの練習をします。遠い北国や高い山に行かないと聞くことできない歌声を身近な場所で聞くチャンスです。

木の葉を落とした林を散策していると急に鳥の声に囲まれることがあります。冬になると「混群（こんぐん）」と言っているいろいろな種類の鳥と一緒に群れを作って林の中を移動しながら暮らしているのです。シジュウカラ、メジロ、エナガ、コゲラ、ヤマガラなどが混群を作る代表的な野鳥です。ツッピー、チー、ジュリ、ギー、ニーニー・・・鳥ごとに独特の声をしますので、双眼鏡で姿を見ながら声を確認しましょう。「バードウォッチング」と言いますが、実際にはまず声を聞いて鳥を見分けることが大事で、次に肉眼で鳥の姿をとらえ、最後に双眼鏡や望遠鏡で観察することになります。鳥の声を覚えることは最初はちょっと大変ですが、自然観察会に参加したり、ビデオやCD、インターネットなどで声を聞いたりするうちに、簡単に聞き分けられるようになります。

野鳥の恋の季節というと美しいさえずりが聞かれる春から初夏が一番ですが、セグロセキレイは秋のうちに相手を見つけてカップルを作り、氷の張った谷津田に 2 羽でやってきて鳴き交わしながら仲良く餌を探しています。モズは秋にオスもメスも単独でなわばりを作って、キチキチキチと激しく鳴いて自分の領土を宣言します。1 月終わりから 2 月になるとオスが他の鳥の鳴きまねをたくさん取り込んだ複雑なさえずりをします。これはモズの恋歌で、ツバメ、メジロ、シジュウカラなど本物と勘違いするほど上手な鳴きまねを披露してくれます。

### ■ニホンアカガエル

晩秋に土にもぐり込んで冬眠したアカガエルは 2 月のはじめになると一度目を覚まして田んぼに集まり、産卵をします。冬型の天候が緩んだ曇りや雨の夜、谷津田のあちこちにアカガエルが顔を出し、オスはキョキョキョキョキョ・・・と小さな声で鳴いてメスを誘い、メスが現れると我先にと後ろから抱きつきます。静かな真冬の谷津田で行われる熱いアカガエルの営みが下大和田や小山で見られるのは毎年 2 月のはじめ頃からです。夜の 8 時を過ぎるとたくさんのカエルたちが出現し、がんばって 11 時過ぎまで田んぼにいれば、感動的な産卵の瞬間を見ることもできます。冬の谷津の一大イベントをぜひ一度観察してみてください。卵からオタマジャクシがかえる頃、親は再び冬眠に入っています。



はるばるシベリアから渡ってきたツグミ  
(小山にて、2008/2/2 撮影：高山邦明)



1 匹のメスに 3 匹のオスが群がる  
(下大和田にて、2010/1/28 夜 10 時ごろ 撮影：高山邦明)

### ■植物

冬は咲いている花もなく見るものが何もないのではないかと思います。冬には冬の楽しみがあります。草

や木々の冬越し、木々の葉が落ちたことで観察しやすくなるもの、など楽しめるものがあります。

**冬芽と葉痕** 木々の冬越しの様子を観察しましょう。樹木の芽はどのようにして冬を越しているのでしょうか。ルーペを使って見てみましょう。たけのこの皮のように幾重もの鱗片（芽鱗）で包んでいるもの、小さな葉がそのまま縮まったものや綿毛に包まっているもの（裸芽）などいろいろです。鱗片は葉が変化したものとされていますがこうして冬の寒さや乾燥から芽を守っています。冬芽と併せて葉の落ちた痕（葉痕）の形や養分を吸い上げる維管束の痕も樹木によって様々です。擬人化してみると整った顔立ちに見えたり、ユーモラスな顔に見えたり、動物顔に見えたり、芽が帽子をかぶっているように見えたりとなかなか面白いものです。ヤマグワとヒメコウゾは花や実がついていないと葉では見分けがつかませんが、葉が落ちると冬芽と葉痕で容易に見分けられます。「半月タケノコ・丸でモモタロウ」と覚えます。これは芽がタケノコ状の鱗片で葉痕が半円のもののはヤマグワで葉



いろいろな冬芽。左からニワトコ、サンショウ、ゴンズイ、クス（撮影：網代春男）

痕が丸く芽が鱗片2枚で桃のように見えるのはヒメコウゾです。ヒメコウゾの実丸いので「丸でモモタロウ」と覚えられますね。クリの芽は色も形もクリを小さくしたような丸い芽が枝先についています。木の肌ではクリとクヌギは似ているところがありますがクヌギは枝先に短毛のあるタケノコ状の芽鱗を複数つけますのでこの冬芽で見分けがつかます。木々の冬芽と葉痕を観察しながら歩いて見ましょう。

草の冬越しはどうでしょう。「ロゼット」という言葉を聞いたことがあるでしょう。バラの花のように平らな構造で放射状になっている状態を言います。タンポポなどが代表格です。地上茎を出さないタンポポは一年中ロゼット状ですが、秋に芽を形成する草はこのようなロゼット状で冬を越します。どうしてこのような姿で冬を越すのでしょうか。寒風を避け、地面に張り付くように葉を広げ、太陽の光をいっぱい受け、地面の温度も利用して冬を越しているのです。ナズナ、タネツケバナ、ハルジオンなど畦や土手の草を観察してみましょう。前出のタンポポですが冬の間は花茎を伸ばさずロゼットの中心に潜りこんでいるような感じで咲きますが、咲き終わると花茎を伸ばします。タンポポは風媒花ですから種は風に乗せて遠くに飛ばせたいのですね。こんな戦略を見るのも楽しいものです。

冬の観察にはルーペあるいは双眼鏡を持ちましょう。双眼鏡は鳥を見るだけでなく逆さに覗くとルーペにもなります。

#### ■昆虫

昆虫は卵、幼虫、蛹、成虫など種により様々な形態で冬を越します。おおかたは人目につかない所で越冬しています。越冬場所は樹皮の裏や樹洞、落ち葉下などですが樹皮をはがしたり、掘り出したりすることは控えましょう。木に付けた名札裏なども虫達の越冬場所になります。インパクトを与えないようそっと覗いて見るぐらいにしましょう。オオカマキリやナガコガネグモの卵のう、枝についたウスタビガやヤマユガの繭などのように目につくものを観察しましょう。ごく暖かい日にはツチイナゴやキタテハ、テントウムシなど成虫で越冬しているものが出てくることもあるでしょう。

（野鳥・アカガエル：高山邦明、植物・昆虫：網代春男）

## 谷津田いきもの図鑑 No. 38

### アオジ

ホオジロ、カシラダカに続いて、今回もスズメによく似た冬の代表的な野鳥、アオジを紹介します。見られる場所は谷津の斜面林の縁のやぶやアシ原です。とても警戒心が強くてなかなかゆっくり姿を見せてくれませんが、こうした場所を散策すると「チッ」という声を出してやぶから飛び出してきて、すぐに別のやぶに姿を消すことがあります。その時、ちらっとでも黄色が見えたらアオジです。体の下面からのどにかけて黄色い羽毛で覆われています。頭は緑がかった灰色で、名前の「アオ」は昔の色の呼称で羽毛の緑色を指します。日本には元々「緑」という色の名前はなかったもので、青というと緑色も含まれます（青葉も新緑の緑ですね）。メスは黄色も緑も淡く、それこそスズメに見えるかもしれません。

復習になりますが、チッと2声の地鳴きはホオジロ、弱々しいチッはカシラダカ、強いチッがアオジです。聞き分けに挑戦してみてください。

アオジは夏場、標高1,000mを超える高地で過ごして繁殖し、冬になると干葉の谷津田など低地に降りてきます。食べ物には主に草木の実で、やぶの中や木の下見えにくい場所の地面に降りて餌を探していることが多いのですが、田んぼの畦で餌をついばんでいる様子を見かけることもあります。

4月ごろの暖かな日に林のこずえに止まって、チョッピーチョッ チクイチリリなどゆったりとしたさえずりを聞かせてくれることがあります。アオジは美声の持ち主として知られており、初夏の高原でないと聞かれない歌声を身近な谷津で楽しめるチャンスです。その頃のオスは目の先が黒い夏羽に変わっていることでしょう。山へ帰る準備です。

（高山邦明）



地上で餌を探していたアオジ（オス）  
（2007/1/4 撮影：田中正彦）





# 里山たんけんレポート

## 第 120 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2010 年 1 月 10 日(日) 晴れ

今日は 120 回目の観察会です。毎月 1 回第一日曜日の開催ですからお蔭様で丸 10 年となりました。いつも感動を与えてくれる谷津の自然、これからも親しむ機会を持ち続けたいと思っています。1 月の定例行事 YPP の「どんど焼きと昔遊び」も同時開催です。はじめに 1 時間、谷津を巡りバードウォッチングをして、広場でどんど焼きをしました。草地や林縁、葦原にはカシラダカの群れやアオジがいますがこちらが気付く前に気付かれ飛び立ってしまい、なかなかじっと観察させてくれません。それでも梢に止まったカシラダカやカワラヒワ、ブッシュのアオジ、田んぼのセグロセキレイのペアなどはしっかり見ることは出来ました。オオタカの飛翔もあり、観察会終了後の「どんど焼き」中にはノスリの飛翔もありました。観察会では 12 種を観察、その前後で 4 種、合計で 16 種を確認しました。1 時間と言う短時間でしたのでちょっと少ないですが、前日の下見では 2 人で 22 種を見えています。今年は鳥が少ないようですが谷津の冬鳥も一通りは揃ったといえるでしょう。観察会終了後は「どんど焼きと昔遊び」を大人も子供もたっぷり楽しみました。

(参加者 大人 15 名、子ども 8 名； 報告：網代春男)

## 第 104 回 下大和田 YPP「どんど焼きと昔あそび」

2010 年 1 月 10 日(土) 晴れ

穏やかに晴れ渡った空の下、今年最初の下大和田 YPP が行われました。定例の自然観察会と同時開催ということもあり、最初に 1 時間ほどかけて谷津を散策しました。野鳥の姿は少なかったものの、もぐら塚や背の高い霜柱、厚い氷など冬ならではの観察ができました。

イベント広場に戻り、まずはどんど焼きに点火するための火起こしです。子どもたちが「やりたい！やりたい！」と火起こし器の回りに集まります。マイギリ式、ヒモギリ式、キリモミ式の 3 つの方法で挑戦。最初に点火したのは昨年についてキリモミ式で、小学校 6 年生の女の子でした。火をどんど焼きの方に移すと、乾燥した草が一気に燃え上がりました。かかしの竹がはじける音が谷津に響き、少し離れていても暖かさが



力を合わせてマイギリ式の火起こしに挑戦（撮影：田中正彦）

伝わってきます。正月飾りなど無事にお炊き上げができました。火が着いても自分で火起こしをしたいという子どもたちはまだ挑戦。そのがんばりに頭が下がりました。

どんど焼きの火が落ち着いてきた頃、暖かな味噌汁やほかほかの焼き芋ができ上がってお昼ごはんになりました。

お腹がいっぱいになったところで恒例の谷津田運動会です。去年も大いに盛り上がった水路でのボートレースに竹とんぼ滞空競争、そして生き物かるた名人戦、どれも子どもたちが真剣な顔つきで挑戦していました。焚き火の周りではベイゴマ、木ゴマ、けん玉など昔なつかしい遊びの道具が出されて、思い思いに遊びました。驚いたのはベイゴマが回せる子どもが増えたこと。大人も交えてにぎやかなベイゴマ合戦になり、みんな真剣な顔つきで自分のコマを見つめたり、一喜一憂したり。大人と子どもと一緒に遊ぶ機会なんて今は貴重ですね。一日たっぷり遊んでそれぞれ谷津田をあとにしました。

(参加者 大人 30 名、小学生 8 名、幼児 12 名； 報告：高山邦明)

## 第 52 回 小山町 YPP「自然観察ともちつき」

2010 年 1 月 23 日(土) 晴れ

朝は冷え込みましたが穏やかな晴れの天気になって日なたにいるとあまり寒さを感じない陽気でした。まずはみんなで谷津を散策しました。期待した野鳥は数が少なかったのですが、スズメをじっくり観察したり、鳥の鳴き声による聞き分けの挑戦しました。陽だまりにはオオイヌノフグリやホトケノザが咲いて、クモが動き回っていました。

リンドウ広場に戻り、昨年収穫した緑米のもちつきをしました。最初に大人がある程度ついてから子どもたちにバトンタッチ。子供用の杵ですが、小さな子どもには結構大変です。みんなでヨイショ、ヨイショとかけ声を出して応援しました。つきあがったお餅はさっそくいろいろな味付けで食べました。自分たちで育ててついたお餅の味は格別。緑色がしっかりと残った玄米餅は特に好評でした。5 升を 3 回に分けてついて、お腹がいっぱい。今年もお米づくりをがんばる元気がわいてきました。



野鳥観察の風景（撮影：榎本一雄）



大人も子どももみんなでペタン！

(撮影：榎本一雄)

(参加者 大人 22 名、小中高生 17 名、幼児 4 名； 報告：高山邦明)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 1月23日 ノスリが谷津の上空を悠々と滑空(高山)。  
1月30日 田んぼでニホンアカガエルの卵塊を一つ確認。冬型が崩れた1/28の晩に産卵したと思われる。日中だが斜面林の奥からフクロウの声が聞こえた(高山)。

### 下大和田

- 1月10日 オオタカがセグロセキレイを襲う場面を目撃。狩りは失敗に終わった(田中・高山)。  
1月23日 田んぼにニホンアカガエルの卵塊を確認。暖かかった1/19~20に産卵を始めた模様。田んぼからタシギが飛び立つ。スギの高いこずえにノスリがとまって餌を探していた(高山)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼第105回「アカガエルの卵塊しらべと林や田んぼの手入れ」

暖冬の影響か例年よりも早く1月に産卵を始めたアカガエルの産卵状況を調べます。みんなで手分けをして田んぼを巡り、いくつ産んだのか数えます。早く産みつけられた卵は孵化していることでしょうか。また、林のササを切ったり、田んぼの畦を直したり、谷津の整備もしたいと思います。小さなお子さんでも楽しめますよ。

日時: 2010年2月20日(土) 10:00~14:00 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、軍手、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第122回 下大和田3月の谷津田観察会とごみ拾い

アカガエルの卵も孵化を始めているでしょう。孵化状況を見たり、早春の花を楽しみましょう。冬鳥も繁殖地へ移動を始めています。残っている冬鳥の声にも耳を傾けながら散策しましょう。午後まで時間の取れる方は田んぼの草取り作業にご協力いただければと思います。

日時: 2010年3月7日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田YPPに同じ)

集合: 下大和田YPPに同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼第53回 小山町YPP「自然観察と田んぼの手入れ」

春の気配を感じ始める頃です。谷津を散策して草花や野鳥などを観察しましょう。また、今年の米作りに向けて田んぼの手入れもしたいと思います。小さなお子さんの参加も歓迎です!

日時: 2010年2月27日(土) 10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場  
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、軍手、帽子、敷物など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

**編集後記** 今年も谷津田でニホンアカガエルの産卵がはじまりました。例年、下大和田は2月の最初から、小山ではそれから1~2週間遅れて始まるのですが、今年は下大和田で1月19日ごろ、小山で28日ごろと、かなり早い産卵開始となっていて、暖冬の影響と思われる。去年は産卵数がかなり多かったのですが、今年はどうでしょう? みんなでアカガエルたちを見守っていきたいと思います。

(高山邦明)